

# クロスエンタープライズ・ ジョブ管理によるコストと 複雑さの低減、およびサー ビス・デリバリの向上

CA Technologies は  
全体的なプラス評価  
を得ています<sup>1</sup>

82% の顧客が ROI  
の全般的な向上を理  
由に CA Workload  
Automation を選択  
しています<sup>2</sup>

Fortune50 社の企  
業のうち 33 社が使  
用

## ビジネス・トレンド



- IT の消費化によって IT のリソース、スタッフ、および予算に課題がもたらされています。エグゼクティブの 80% が消費化によってワークロードが増加していると述べています。<sup>3</sup> 正しい手法とツールがあれば、IT コストの削減、生産性の向上、リソースの再割り当てによって革新を推進できます。
- データセンタの役割は、単に確立済みのビジネス・プロセスをサポートすることから、IT リソースの最適な調整を通じて継続的に革新を推進することへと急速に進化しています。最も効果的な組織を目指すなら、完全に統合された動的データセンタにおいて情報システムの高度な自動化、異種アーキテクチャでのアプリケーションの実行、最適なサーバへのワークロードの割り当てを可能にする必要があります。
- SLA に違反すると、組織に直接費が発生し、チャンスも犠牲になります。直接費は現金の発生を意味し、チャンスが犠牲になるということは顧客の不満足を意味します。
- 多くの IT 組織は、リアルタイム・データ主導のエンタープライズ・アプリケーションに 24 時間 365 日アクセスを提供する必要があるため、バッチの時間は減少の一途をたどっています。ピーク時以外にビジネス・アプリケーション全般へのアクセスを制限することはもはや受け入れられない一方で、バックグラウンドの処理も必要になります。
- 長い年月の間に、企業のジョブ管理は、メインフレームから UNIX や Windows などの分散サーバへと進化し、その後、ERP プラットフォームやその他のオペレーティング・システムが含まれるようになりました。クラウドや IT as a Service (サービスとしての IT) など、新しいアプリケーションのデリバリ・モデルによって、さらにスペースが混乱し、基盤となるインフラストラクチャが複雑化しています。ジョブ・スケジューリングの手法から高度なジョブ管理に移行するには、IT は下記の図で示すような完全なジョブ管理ソリューションの正確な要件を詳細に確認する必要があります。

成熟度レベル

### 動的なサービス・デリバリ

統合と予測

- ビジネス・サービスの調整
- クロスエンタープライズの管理
- 役割中心のエクスペリエンス

- 統合されたライフサイクル管理
- プロアクティブなサービスレベル管理と高度な分析

### ジョブ管理

動的なリソースとワークロード

- イベント・ドリブン
- 動的インフラストラクチャ
- Web とクラウドへの統合

- サービス指向
- アプリケーションのワークロード
- 複数プラットフォーム・システム

### ジョブ管理

統合されたリソース・プール

- ビジネス指向
- ビジネス・イベント主導
- クロスプラットフォームの統合

- 動的なワークロードの分配
- 例外ベースの監視
- IT システム統合

### ジョブ・スケジューリング




定義されたプロセスおよび IT 中心

- 柔軟性の低いバッチ・スケジュール
- ジョブの一元管理
- 静的なワークロードの分配

- 単一プラットフォームのシステム
- IT 指向
- リアクティブな問題対応

ビジネス・バリュー

## 顧客の課題

	IT 運用担当副社長	ワークロード・チーム	アプリケーション・チーム
			
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>サービス・デリバリの改善</li> <li>スタッフの生産性の向上</li> <li>コストと複雑さの軽減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複雑なワークロード管理の簡略化</li> <li>SLA 遵守のデリバリ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アプリケーションのアップタイムの確保</li> <li>開発サイクルの短縮</li> </ul>
CA Value	<ul style="list-style-type: none"> <li>一貫性と信頼性に優れたサービス・デリバリ</li> <li>IT の効率の向上</li> <li>ROI の加速</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理の一元化</li> <li>バッチ時間の減少</li> <li>平均修復時間の短縮</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アプリケーション可用性の向上</li> <li>使いやすさ</li> </ul>

## CA のソリューション

<p><b>エグゼクティブ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>ビジネス主導のアプローチ</b>で組織を管理して、クロスエンタープライズのワークロードを視覚化、制御、および最適化できます。また、これらは実質的にあらゆるビジネス・イベントでトリガできます。</li> <li><b>組み込みの高度な自動化機能</b>があるため、手作業と人為的ミスが減少し、運用スタッフをより重要な付加価値プロジェクトに振り分けられます。</li> <li><b>導入と管理の簡略化</b>によって、投資回収が加速され、運用コストが削減されます。</li> </ul>	<p><b>ワークロード・チーム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>複数プラットフォームのスケジューリング</b>によって、すべてのプラットフォームのビジネス・プロセスを一元化して、エンドツーエンドで管理および可視化できます。</li> <li><b>高度な分析、シミュレーション、および視覚化</b>によって、重要なエラーのビジネスに対する影響を簡単に把握でき、コミュニケーションと調整が向上するため、潜在的な問題の優先度の決定と対応が簡略化します。</li> <li><b>シームレスなアプリケーション統合</b>によって、重要なビジネス・アプリケーションを優れた信頼性と柔軟性で管理できるようになり、企業内で実行されている他のワークフローと同期して実行することも可能になります。</li> </ul>	<p><b>アプリケーション・チーム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>セルフサービス</b>によって、エンドユーザはワークロードのポリシーとガバナンス・プロセスで制御されたワークロードの処理を要求および実行できます。それによって、高度な効率と制御が実現すると同時に、サービスの管理を強化できます。</li> <li><b>高度な表示とレポート作成機能</b>によって、包括的で最新のワークロードに関する情報を活用して的確で迅速な意思決定が可能になります。</li> <li><b>予測とシミュレーション</b>では、予測分析を使用した「what-if」シナリオのシミュレーションによって、全社規模でワークロードアプリケーションの可用性を向上できます。</li> </ul>
--	--	--

## ビジネス・インパクト



- HDFC Bank:** IT はすべてのバンキング・チャネルの顧客エクスペリエンスの基盤として、同行の金融取引の大半を支えています。同行の戦略的メリットと顧客サービスはその IT 機能と相互に密接に関係しているため、HDFC Bank は IT インフラストラクチャの可用性とパフォーマンスを確保する必要がありました。しかし、それは複雑化する一方でした。CA Workload Automation の導入によって運用エラーが削減され、遅延が減少し、システムをタイムリーに提供できるようになり、HDFC Bank の顧客への可用性が向上しました。CA Workload Automation は 82 個のアプリケーションに実装され、自動化によって 1 日あたり 40 時間の運用時間の削減に成功しました。

## ROI 調査によるメリットの例

CA Technologies では、個々のメインフレームと分散したワークロード管理ソリューションを 1 つのジョブ管理ソリューションに統合することで、企業に実現する総合的な経済効果と ROI の予測を調査しました。企業が達成する主な成果は以下のとおりです。

- 初期回収率 141%、ROI 222%、回収期間 11 か月
- 40% ~ 50% のワークロード管理作業の削減
- 32% から 37% の IT 管理スタッフの生産性の向上

出典: 「2014 CA Technologies Workload Automation ROI Business Case Study」

ご希望があれば、CA Technologies ではお客様独自のカスタム ROI ビジネス・ケースを作成して、CA のソリューションによって確実に実現可能な値を特定するお手伝いをさせていただきます。

### コスト削減の範囲

### 効果の範囲

収益を創出するアプリケーションの可用性の向上による収益の増加	17.5% - 22.5 %
IT スタッフの生産性の向上 (定義、監視および管理)	40% - 50%
ジョブ管理によるビジネス・エンドユーザの生産性の向上	0.4% - 0.6%
カスタムのワークロードの要件に対するアプリケーション開発コストの削減	4.5% - 5.5%
入れ替えたソフトウェア保守の更新にかかるコスト削減	92.5% - 97.5%
完全な監査証跡の情報によるコンプライアンス・コストの削減	22.5% - 27.5%
CPU リソースの活用による処理 MIPS 可用性の向上 (メインフレーム環境)	7.5% - 12.5%
新規サーバ購入の減少 (分散環境)	60% - 70%

上記の効果の範囲は、ベンチマーク・データの分析から得た推定値で、このベンチマーク・データは、業界アナリストが公開した情報、関連分野の専門家とのインタビュー、および以前の CA Technologies 顧客との予測分析からの実験データから派生した複合データです。これらの値は達成可能な結果を保証するものではなく、現状のインフラストラクチャ、要員、プロセス、および CA Technologies ソリューションの適切で有効な実装、導入、使用に応じて異なる場合があります。

## CA Technologies の 利点

- メインフレーム、分散、およびクラウド環境に対応した包括的なソリューション
- 実証されたスケーラビリティ、信頼性、パフォーマンスにより、Fortune 50 企業の 33 社が採用
- アプリケーション開発またはデータセンタ業務を担当するユーザは処理プラットフォームにかかわらず、一元化してワークロードを定義、監視、制御、管理、および統合できるため、管理が簡略化され、運用コストが削減されます。
- イベント主導の独自のアーキテクチャではパッシブなイベント・センサ・テクノロジーを使用して動的にワークロードの処理が開始されるため、ワークロードを直接すばやく実行して、サービスレベル・アグリーメント (SLA) を遵守できます。
- カスタム・アプリケーション開発のニーズが低減されるため、高コストの内部のワークロードの要件が減少します。また、幅広いワークロード機能によって、ダミー・ジョブや不要なファイル転送を実行せずに直接統合することができます。

## アナリストの見解



「CA Workload Automation はミッション・クリティカルなオンライン・ビジネス戦略を実現する重要なソリューションとして、さまざまな方法でビジネス・パフォーマンスを向上させてきました。たとえば、ある大手金融サービス会社では、ミッション・クリティカルな投資の「迅速な取引」の完了率が 82% から 99.5% に増加しました。」

### Mary Johnston Turner 氏

IDC Research 社、副社長

出典: 「Workload Automation Emerges as Business Innovation Engine in the Era of Cloud, Big Data, and DevOps」 Mary Johnston Turner (2015 年 4 月)



CA Technologiesがベンダ格付けで全体的に高評価を獲得

### Gartner

「Gartner-Vendor Rating:CA Technologies」 Cameron Haight (2014 年 3 月 26 日)

Gartner は調査資料で示しているいかなるベンダ、製品、サービスを支持することも、最高評価を得たベンダのみを選択するよう、技術ユーザに助言することはありません。Gartner の調査資料は Gartner の研究機関の意見に基づくもので、陳述書としてとらえるべきではありません。ガートナーは、明示 または黙示を問わず、本リサーチの商品性や特定 目的への適合性を含め、一切の保証を行うものではありません。

詳細情報:[ca.com/jp/wla](https://ca.com/jp/wla)



[ca.com/jp/](http://ca.com/jp/)でCA Technologiesにアクセスしてください



CA Technologies (NASDAQ:CA) は、企業の変革を推進するソフトウェアを作成し、アプリケーション・エコノミーにおいて企業がビジネス・チャンスを獲得できるように支援します。ソフトウェアはあらゆる業界であらゆるビジネスの中核を担っています。プランニングから開発、管理、セキュリティまで、CA は世界中の企業と協力し、モバイル、プライベート・クラウドやパブリック・クラウド、分散環境、メインフレーム環境にわたって、人々の生活やビジネス、コミュニケーションの方法に変化をもたらしています。詳細については [ca.com/jp/](http://ca.com/jp/) をご覧ください。

1 出典 :Gartner, Inc. 「Vendor Rating:CA Technologies」 Cameron Haight 共著 (2013年3月6日)

2 「Techvalidate TVID:F49-B1B-172」

3 出典 :「2012 Consumerization of IT Survey」 InfoWeek (2012年2月)

Copyright © 2015 CA. All rights reserved. 本書に記載されているすべての商標、商号、サービス・マーク、ロゴは、該当する各社に帰属しています。本文書は情報提供のみを目的としています。本書に含まれる情報の正確性または完全性について CA は一切の責任を負いません。準拠法で認められる限り、本文書は CA が「現状有姿のまま」提供するものであり、いかなる種類の保証（市場性または特定の目的に対する適合性、他者の権利に対する不侵害についての黙示の保証が含まれますが、これに限定されません）も伴いません。また、本書の使用が直接または間接に起因し、逸失利益、業務の中断、営業権の喪失、業務情報の損失等いかなる損失または損害が発生しても、CA は一切責任を負いません。CA がかかる損害の可能性について明示的にあらかじめ通告されていた場合も同様とします。本書に記載された一部の情報は、幅広い開発および顧客環境における参照ソフトウェア製品から CA または顧客が得た経験に基づいています。このような開発および顧客環境におけるソフトウェア製品の過去のパフォーマンスが、同じ環境、類似した環境、または異なる環境で、かかる製品の将来のパフォーマンスを示すものではありません。CA は、ソフトウェア製品が、本書に記載される明確な説明どおりに動作することは保証しません。本書で参照される製品に対する CA のサポートは、(i) 参照される製品について提供されているドキュメントおよび仕様、(ii) 参照される製品に対する CA のその時点でのメンテナンスおよびサポートポリシーに従ってのみ提供されます。